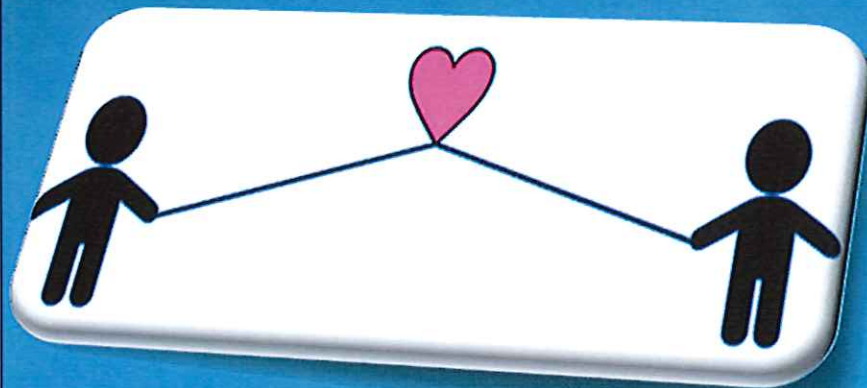


地域におけるヨソモノの必要性



大阪国際大学 田中優ゼミ
松田 達磨
三登 康太郎
今尾 勇太
小谷 光明

目次

- 問題提起
- 調査結果
 - 京田辺市概要
 - 行政主導のまちづくりによる問題点
 - 住民主体のまちづくりを進めるための三要素
 - 昼間人口比率
- 京田辺市と同志社大学の関係性
 - 同志社大学の地域活動
 - きゅうたなべ倶楽部概要
 - 街頭インタビュー
- 大学生のニーズについて
- 小活
- 政策提言
- まとめ



問題提起

- 住民主体のまちづくりが主流となっている今日、京田辺市ではどうなのか？
- 市と同志社大学が提携しているが、小規模単位の自治会、また、住民と同志社大学とのつながりは？
- 住民主体のまちづくりができていないのではないか？
- 大学と自治会、または、住民との繋がりが無いのでは？

京田辺市 概要

- 人口 65,420人
- 世帯数 25,928世帯
- 高齢化率 20.3%
- 主産業 宇治茶を使った「玉露」



参照「京田辺市地区別人口及び世帯数」 平成25年1月1日現在

「住民基本台帳及び外国人登録人口」 平成23年10月1日現在

行政主導のまちづくりの課題

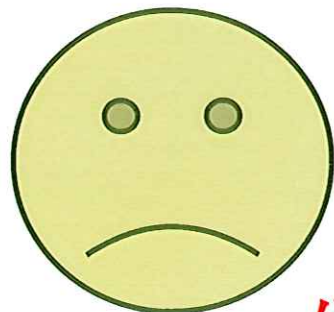
現在以上の行政サービスを展開するのは難しい

全国の財政状況に加え...

平成23年4月1日 計588人

平成18年4月1日 計628人

純減数 40人



住民自治を進めていかなければ、地域課題が解決しない

住民主体のまちづくりを進めるのに 必要な三要素

住民主体のまちづくりを一層進めるためには、地域に**innovation**が必要である

しかし...

内部の人々が昨日までのやり方を
急に変えるのは難しい

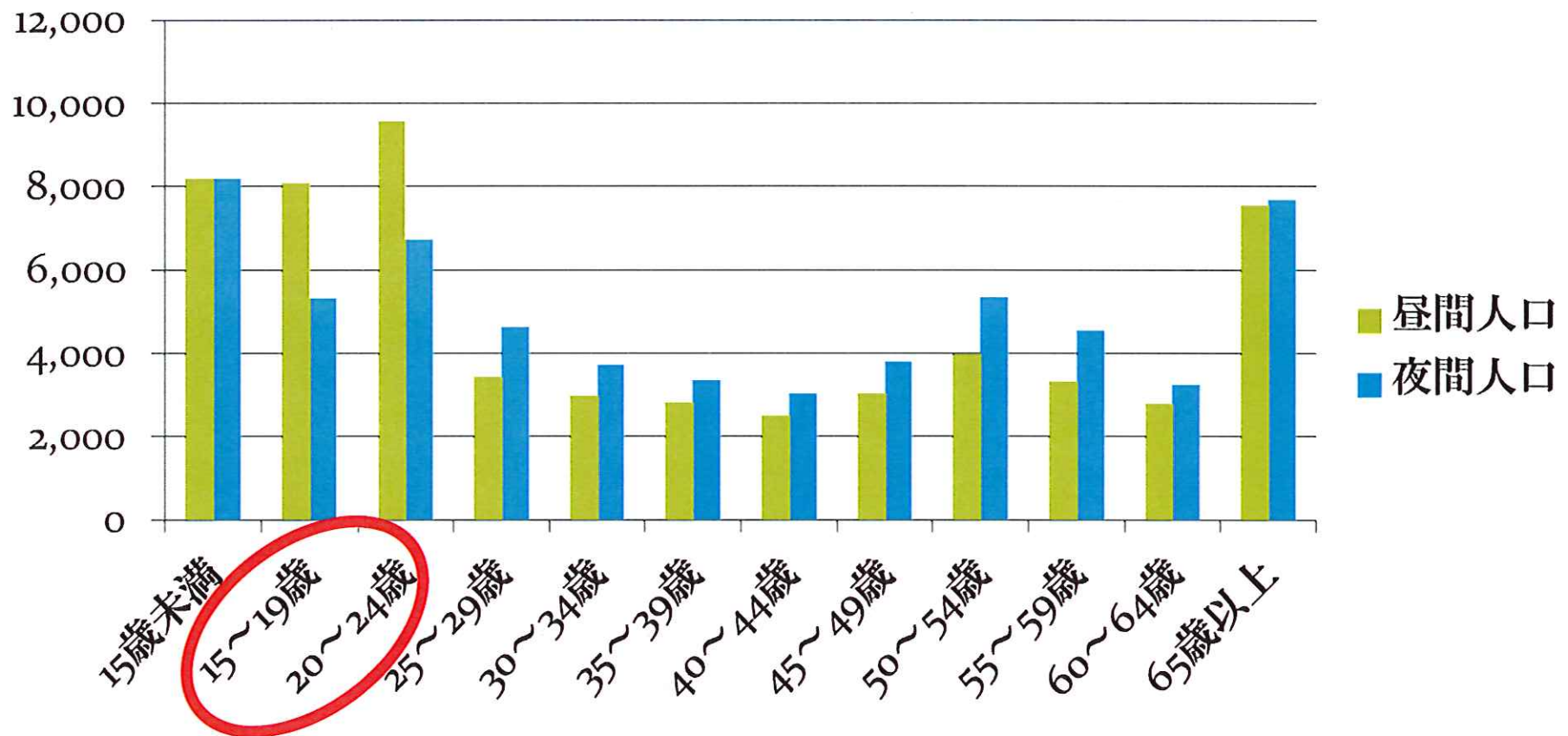
今までの固定概念にとらわれにくい “**ワカモノ**”

今までのやり方を知らない “**ヨソモノ**”

今までの枠組みに収まらない “**バカモノ**”

そこで必要な人材

昼間人口比率 考察



京田辺市と同志社大学の関係性

- 包括協定

- 京田辺市と同志社大学、同志社女子大学および同志社国際中学校・高等学校とは、相互の人的、知的資源の交流と物的資源の活用を図り、第1条に掲げる目的を推進するために、協定を締結する。

- 第1条

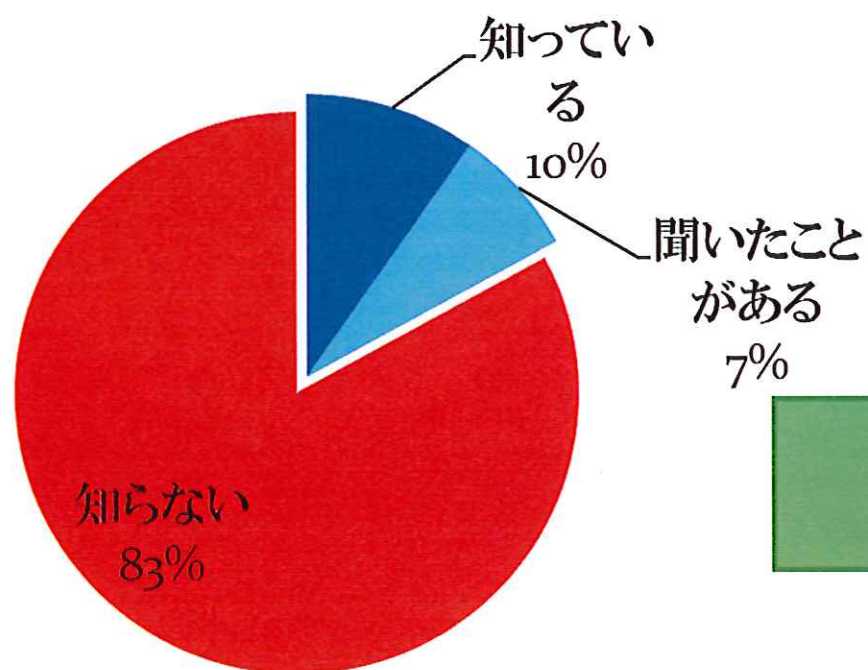
- この協定は京田辺市と同志社大学等が包括的な連携のもと教育、文化、福祉、地域産業、まちづくり等の分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とする。

NPO法人きゅうたなべ倶楽部

- メンバー構成
 - 学生スタッフ、渉外学生、住民サポーター
- 活動拠点
 - 京田辺市の自治会等 市全域
- 新入生向けフリーペーパーの作成
- 月1で情報交換会(学生、住民)
- イベントの企画、開催
 - 例:竹フェスティバル



街頭インタビュー



(質問項目) きゅうたなべクラブをご存知ですか？

- 知っている
- 名前を聞いたことがある
- 知らない

やはり、一部の学生が関わるのみでは、
地域と大学が密接とは言えない

京田辺市では大学生を 必要としていないのでは？

- 意見交換会やイベントを中心に自治会との関わりがある
しかし...
- 京田辺市において、一部の学生のみが関わるだけでは、地域と大学が密接とは言えないのではないか？

実際に

住民に対して「同志社大学への意見、要望」のインタビューを行なった

- ・大学と交流するのは年に1回(11月)のクローバー祭だけ。(三山木)
 - ・大学生がいることで活気づいたがゴミが増えた。(新興戸)
 - ・観光に対して学生の意見を入れて欲しい。(興戸)
- 等



地域に対する大学生の必要性を答える人が少なかった

枚方市菅原東小学校区と 南山城村高尾地区の比較

菅原東小学校区

- 現状高齢化が進んでいない
(21.6%)
- 既存のイベントに参加する
ケースが多い
 - (例) 体育祭、夏祭り
- 定例会に参加している
月1回

南山城村

- 高齢化が深刻である(47.7%)
- 学生が入ったことにより
復活したイベントがある
 - (例) 春日祭り
- 学生が発端となり地域につい
ての会議が行われるよう
になった
月1回

過疎化の進んだ地域ほど学生(ワカモノ)のニーズが高いのではないか？

このことから

- 高齡化が深刻である南山城村
実際に行動に移しているわけではないが、「何かをしなければ」という意識を持った人は多かった
学生が入ることで、良くも悪くも変化が起きた
高齡化について考える場に、少ないながらも村民が訪れるようになった
- 菅原東小学校区
現状大きな問題はない
学生を必要としている雰囲気は見られなかった

普賢寺と大学周辺地域(三山木、興戸、田辺)

▶ 実際に調査したところ...

普賢寺

- 大学生が児童の面倒をみることで、普賢寺小学校を魅力ある小学校にしてほしい。
- もっと大学生に地域を知って欲しい。
- 普賢寺を考える会に青年部を創るため、大学生が入って欲しい。

同志社大学周辺

- 地域に学生が必要だとは思わない。
- イベントに参加して欲しい。
- 観光に対する学生の意見が欲しい。

等

等

このことから
普賢寺地域におけるニーズの高さがうかがえる

小括

- 過疎化の進んだ地域では、少なからず住民は危機感を持っている。

そこに、学生が入ることで前進するような変化が起こるのではないだろうか。

ニーズの高い地域に入ることにより、地域・学生共に多くのメリットが生まれるのではないだろうか。

政策提言

フゲンジ大学の創立

学生が地域に入る仕掛け

- 大学が普賢寺での活性化の活動を、授業として単位化する。



この授業は”地元学”を学ぶための構成で行われる



学生が普賢寺に入りやすい環境を構築する

多様な視点によるまちづくり

- 同志社単体で無く、複数の大学と共に地域に入ることにより多様な視点での新たな発見が期待できる

関西文化学術研究都市 6大学

奈良先端科学技術大学院大学
同志社大学 同志社女子大学
大阪電気通信大学 関西外国語大学
大阪国際大学

生涯教育のシステム構築

将来的には、大学を卒業した後の、社会人なども通える生涯教育のフィールドへと展開していくことができれば、より一層、様々な視点から意見を汲み取ることが可能である

住民が自らの地域を見直すきっかけとなり、
地域課題を解決しようとする住民があらわれるのではないか？

まとめ

- 地域、大学双方にメリットがあるが、地域にとってはリスクが存在している

しかし...

- 適切に対処をすることにより、リスクを軽減することは可能である
- このことから、地域に学生が入り、協働のまちづくりを行うことは必要であり、重要であると言える。



ご清聴ありがとうございました。